

人形展「昭和のこどもたち」展によせて

会期：4月11日(土)～5月31日(日)

砺波市美術館 学芸員 末永忠宏

本稿執筆にあたり、ここに作者・石井美千子さんのコメントを引いてみたいと思います。

昭和30年代の子どもの目線で日本社会を探求する「昭和のこどもたち」展を手掛けて27年になります。

1993年の個展開催以来、全国を巡回して20年余り。団塊層は言うに及ばず、結果的に後期高齢者の感動を得てきました。この物語に心を寄せて下さる世代の多くは「昭和のこどもたち」展で表現している昭和30年代に現役でお父さんお母さんをやっていた世代です。

現在、「昭和のこどもたち」の世界は農耕民族としての日本人の原風景と、海洋民族としての原風景を人形とジオラマで表現するスケールの大きな世界になりました。

高度経済成長の黎明期を大きな時代の変わり目ととらえて、失われゆく世界を人形(ひとがた)という形で甦らせています。高齢の認知症を発症している方も良い反応を見せてくれます。私自身、20代の後半、在宅介護を4年経験しました。

多くの展示会場で、多くのシニア世代や後期高齢者の反響を舞台の袖から伺ってきました。ほろりと泣かれたり、微笑まれたり。心が活発に働いておられるのが良く解ります。

『私の仕事』 空間物語「昭和のこどもたち」原作者・石井美千子。

砺波市美術館での展覧会開催をと、石井さんのアトリエをお邪魔したのは平成25年の秋でしたが、今でもその時の感激を覚えています。東京西部青梅のアトリエには高さ30センチの作りかけの人形の姿が複数体ありました。聞くと一年半前の震災で亡くなった子どもたちをモチーフにしているとの事。複数の人形を同時進行で進めます。等倍の綿密な設計図と制作途中の人形を前に、「昭和のこどもたち」に賭ける想いや、昨今の社会事象と絡め熱く語る石井さんの姿を目の当たりにしながら、理想化された表現とは対極の地に足のついたリアリズムを目指す作者の並々ならぬ心意気を感じ取りました。

通常の人形制作とは違ってそのアプローチはユニークです。人形の制作のみならず、情景模型や背景画の作成などにも心を砕きます。設置される空間全体が「昭和のこどもたち」として鑑賞者に提示されます。それは作者である石井さん自らの体験が発端になっていますが、現在では作者自身の様々な制作動機を受けて、日本人の原風景をトータル的に表現する



《僕らの木》2014©Michiko Ishii



《わんぱく》2014©Michiko Ishii

スケールの大きい仕事へと移っています。こうした点を見るならば、この展示のねらいは単に同世代の郷愁やふるさと回帰を促す装置という一過的性格を超えて、今を生きる私たちに多くの問いを投げかけているようにも感じられます。無邪気で屈託がなく大人たちの庇護の対象である一方、少しずつ言葉を覚え社会の一員としての自我を内包させていく子ども。彼らの繰り広げるドラマをとおして、戦後70年、昭和90年となる今日、戦後とは何だったのか、あの時代とは何だったのか、展示から再考を促したいと思います。

新作「海の人」シリーズを含む61タイトル307体によるスケール感ある展覧にご期待ください。

市民美術館の日

5月17日(日) 砺波市民は観覧無料です。

～平成27年度 砺波市文化会館自主事業についてのお知らせ～

砺波市文化会館 企画係 館 宏明

今回は、平成27年度に砺波市文化会館大ホールで予定している事業を紹介します。

9月6日(日)には谷村新司さんのコンサートを開催します。3月14日(土)に開業した北陸新幹線のCM曲「北陸ロマン」を制作するなど精力的に活動されている谷村新司さんのダイナミックなステージを味わってください。

11月8日(日)には「となみ野音楽祭『THEウィンドオーケストラ』」を開催します。「シエナ・ウィンドオーケストラ」と地元中学校吹奏楽部との合同演奏で迫力あるステージを堪能してください。



-H27年3月

オリジナルミュージカル「STATION」場面-

平成28年3月5日(土)、6日(日)には「オリジナルミュージカル『オーライ』」を開催します。となみミュージカルキッズとオーディションで選出された人たちで創り上げるミュージカルに浸ってください。

この他にも、「ホールシネマ・イン・トヤマ2015」「ジャズ・コンサート」「お笑いLIVE『コロッケ』」といった催し物も予定されています。

皆様のお越しを心よりお待ちしております。

となみ芸術文化友の会 公開コンサート

『布上智子 ボサノヴァ コンサート』

2015年5月31日(日)

会場: 砺波市美術館

開場 17:30

2F市民ギャラリー

開演 18:00~19:00

入場無料



布上智子 Tomoko Nunokami

ヴォーカル 富山県出身。

2002年から地元富山で音楽活動を開始。2008年ブラジル音楽に傾倒し、その半年後にはブラジルの国家的存在ジョルジーニョ・ド・パンデイロと3日間の北陸ツアーを敢行。

2010年より活動拠点を東京に移し様々なミュージシャンとセッションを重ね、2012年4月、関東を代表する7弦ギターの名手・尾花毅とのDUOアルバム「0 primeiro passo」をリリース。

サンバの女神に歓迎されたかのような飾らない明るいキャラクターと華やかな歌声で、ブラジル音楽に軸足を置きながら現在は北陸を拠点に全国を巡る演奏活動とともに、地元富山でのサンバ・ボサノヴァの普及や後進への指導にも力を注ぐ。

笛吹き Kana

(Flute その他笛)

福井県鯖江市出身。

3歳からピアノを、小学校時代はクラリネット、中学校からフルートを始める。静岡大学教育学部音楽科卒業。



在学中、民族音楽研

究ゼミにて、アフリカのリズムやガムラン、日本の伝統音楽について学ぶ。卒業後、ジャズフルートを井上信平氏に、クラシックフルートを牧野正純氏に師事。フルートを中心にオカリナやリコーダー、各種民族笛など様々な笛を駆使する、笛吹きパフォーマーとして活動を始める。

2014年4月、Diners Club Social Jazz Session 2013-14 You Tube 動画投稿コンテスト一般投票にて、管楽器部門優勝、総合準優勝で、ブルーノート出場権を獲得。リー・リトナー、クリスタル・ケイ、エイブラハム・ラボリエル、神保彰等と共演。2014年9月、自作曲『Send for Spring』(Jazz trio マナカナミチルCD『音の物語』収録曲)が、米国の作曲コンテスト John Lennon Songwriting Contest 2014 World部門にて、Finalist 受賞。2014年5月、自身の1st Album 『かなぼっくるのたび』をリリース。

馬淵侑子 (Piano)

福井県福井市出身。

国際的に活躍するピアノパフォーマー。幼少からピアノを学び始め、ジャズ、ブルースやR&Bに興味を持つ。京都ANミュージックスクールで亀田邦宏氏に師事し本格的にジャズを学び2010年に渡米、ミュージック・パフォーマンス・アカデ



ミーに入学。2012年にVista Records からソロアルバム“WAVES”をリリース。2013年秋より一時帰国。国内各地での演奏活動に精力的に取り組む一方、テレビや映画等の作編曲も手がける。また、ピアノ講師として若手育成にも力を注いでいる。2014年12月に、ラテンジャズ界のサックス&フルートの名手、フスト・アルマリオと、人気スムーズジャズサックス奏者、アンドレ・デラーノをフィーチャーした心躍る新しいプロジェクト“ My Life ”をリリース。

パフォーマンスを
楽しもう。

～砺波市美術館からのお知らせ～

『使用料改定について』

平成27年4月1日以降の施設使用料（又は利用料金）につきましては、消費税率の改定（5%→8%）に伴い、下記のとおり改正をします。

市民ギャラリー	改定前	5,000円/1日	改定後	5,140円/1日
市民アトリエ				
昼（10:00～17:00）	改定前	2,000円/回	改定後	2,060円/回
夜（18:00～21:00）	改定前	1,000円/回	改定後	1,030円/回

冷暖房を利用される場合は、この表に掲げる金額に100分の30を乗じて得た額（10円未満は、切り捨てる。）を加算します。

『孫とお出かけ支援事業について』

平成27年4月1日から砺波市が実施する「孫とお出かけ支援事業」は、高齢者の外出の機会を促進するとともに、世代間交流を通じて家族の絆を深めるために、祖父母と孫（ひ孫）が一緒に来館された場合に観覧料を無料とし、地域の観光、産業、文化、歴史、民俗、芸術等への関心を幅広い年齢層に広めることを目的としています。砺波市美術館もこの事業に参加しておりますので、同居の有無にかかわらず、砺波市又は富山市に居住する祖父母（年齢を問わない。）と、孫（ひ孫）（居住地及び年齢を問わない。）と一緒に展示を観覧するとき、祖父母及び孫は観覧料を無料といたします。

備え付けの申請用紙に記入の上、受付にお出してください。

～砺波市美術館の展示替え及び施設点検日のお知らせ～

H27					H28								
4月	6(月)	13(月)	7月	6(月)	13(月)	14(火)	10月	13(火)～16(金)	1月	1(金)～3(日)	18(月)		
5月	18(月)		8月	31(月)			11月	16(月)	30(月)	2月	8(月)	15(月)	29(月)
6月	1(月)	15(月)～19(金)	9月	1(月)	14(月)		12月	14(月)	29(火)～31(木)	3月	14(月)		

—編集後記—

二月末に坂東三津五郎さんが亡くなった。二年ほど前、新歌舞伎座で三津五郎の「喜撰」を観た。六歌仙の一人、喜撰法師を軽妙な舞踊仕立てで描いた一幕である。洒脱な踊りが目に浮かぶ。ある雑誌で俳人の西村和子と対談をしていた。楽屋にある桑の鏡台が話題になり、「今では二、三百万もする桑の鏡台を使うなんて無駄じゃないか。何を偉ぶってるんだと。でも、熊谷次郎直実になったり、武蔵坊弁慶になったりして出ていかなきゃいけないのに、プラスチックの鏡台に向かっていたんじゃないか、そうはなれないよね。」ご冥福をお祈りするばかりだ。

(0)

花の夜の仏無口におはします 坂東三津五郎